

だんごむし通信



2月号

発行元

慶應義塾大学 防災社会デザイン研究室

監修：環境情報学部 准教授 大木聖子

しものかえしょうがっこう 下ノ加江小学校のみなさん、
ほごしや みなさま ちいき みなさま 保護者の皆様、地域の皆様

さむ ひ つづ 寒い日が続いていますが、みなさん元気にしていますか？まもなく東日本大震災から 6年がたち
ます。今月号のだんごむし通信では、東日本大震災を経験した小学生の感想、中学生が書いた俳句を
しょうかい 紹介するよ。とうほく ひと 東北の人たちの気持ちに寄り添ってみましょう。

しょうがくせい かんそう 小学生の感想



おばちゃんは、わたしが学校に出かけるときにはかならず、「一日
いちにち 一日を大切にね。」と言って、送り出してくれます。これは、
しんさいのあとから言うようになりました。わたしにとって「一日を
たいせつ 大切に」するのは、やっぱりべんきょう 勉強やうんどう 運動をしっかりとやること
だと思うのでおばちゃんのえ顔のためにも、（がんばらなくっちゃ。）
おも と思います。

いんよう ひがしにほんだいしんさい かわ じどう せい いら さくひんしゅう みやぎけんきょういくいいんかい
引用：東日本大震災に係る児童生徒等の作品集（宮城県教育委員会ホームページ）

おながわいつちゅうせい はいく 女川一中生の俳句

はいく みやぎけんおながわちゅうりつおながわだいいちちゅうがっこう せい と ひがしにほんだいしんさいご おこな がっこう じゅぎょう か
この俳句は、宮城県女川町立女川第一中学校の生徒が東日本大震災後に行われた学校の授業で書いた
俳句です。おながわちゅう 女川町には 20m ものつなみ 津波が押し寄せ、まち わり うち なが 町にある 7 割のお家が流されてしまうほどのおお
な被害がでました。この俳句には、はいく じしん 地震とつなみ 津波で大切なものをなくしたかなしい気持ちと、まえ すす 前に進もうと
する中学生の両方の気持ちが表れているよ。ぜひ、お家の人と一緒に読んでみてくださいね。

うらんでも
うらみきれない
あおいうみ

あいたくて
でもあえなくて
あいたくて

ただいまと
ききたいこえが
きこえない

きいちゃった
そだったいえを
こわすひを

ふるさとが
おながわなのに
サンマくえん

ゆめだけは
こわせなかった
だいしんさい

とまってた
おながわのじかん
うごきだす

ひとりずつ
じぶんのえがお
とりもどす

はるかぜが
せなかをおして
ふいていく

あおいうみ
とつてもきれい
おながわちよう

キラキラと
かがやくうみが
すきなんです

ぜんしんだ
わたしもあなたも
おながわも

いんよう おながわいつちゅうせい く ひ
引用：女川一中生の句 あの日から（はとり文庫）